

International EMECS Center

International Center for Environmental Management of Enclosed Coastal Seas

EMECS



For the Environmental Management and Appropriate Use of Enclosed Coastal Seas

閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用をめざして

閉鎖性海域は外海だけではなく沿岸域の人間活動等を通じて陸域の影響も受けている海域、いわば陸と海とが交わる海域です。その代表ともいえる瀬戸内海は、かつて「瀬死の海」と呼ばれる状況にまで水質悪化が進んだため、総量削減を含む様々な排水規制が行われてきました。瀬戸内海のみならず、同様な問題に直面している世界の閉鎖性海域の環境の保全・創造を目的として国際エメックスセンターが設立された1994年はこのような時期にあたります。

以降、排水規制等によって瀬戸内海の水質は改善されてきましたが、近年は漁獲量の減少やノリの色落ちのように生物生産性は低迷し、水質保全だけではかつての豊かな瀬戸内海が再生されないと考えられるようになりました。このため、2015年の瀬戸内海環境保全特別措置法改正では、「生物の多様性及び生産性が確保されていること等、その有する多面的価値及び機能が最大限に発揮された豊かな海とする」ことが盛り込まれるとともに、2021年改正では特定の海域において栄養塩類を適切に増加させることを可能にする特例も新設されました。

一方、2023年には「生物多様性国家戦略2023 - 2030」が定められ、陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する目標（30by30）が掲げられ、持続可能な産業活動が生物多様性の保全に貢献している海域を「保護地域以外で生物多様性の保全に資する地域（OECD）」として認定することになりました。

このように、閉鎖性海域の環境保全は、当センター創立時のような一方的な負荷量削減から、生物多様性の確保のために負荷量管理、さらには沿岸域生態系の生物多様性の保全へと変化してきました。近年のエメックス会議等で注目されている統合的沿岸管理や里海の創生はまさにこのような変化に対応しているものです。

当センターとしてこれをさらに推進するには、行政、研究者、事業者、市民等の各主体間の有機的ネットワークを構築し、国際的かつ学術的な交流を推進することがこれまで以上に求められています。皆様の御協力と御支援、どうぞよろしくお願い申し上げます。



公益財団法人
国際エメックスセンター

理事長 岡田 光正

設 立 1994年11月 国際エメックスセンター設立
2000年4月1日 財団法人発足
2012年3月1日 公益財団法人移行

理 事 長 岡田 光正

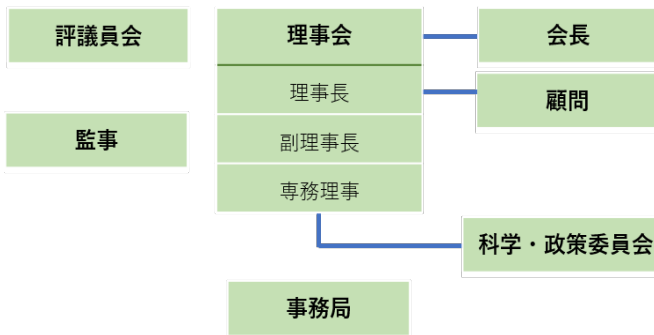
基本財産 約12億円（2024年4月現在）

所 在 地 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号
人と防災未来センター東館5階

設立目的

センターは、行政、研究者、事業者、市民等の各主体間の有機的ネットワークを構築し、国際的かつ学術的な交流を推進するとともに、調査研究及び研修の実施並びに活動に対する支援等の事業を行い、もって閉鎖性海域の環境の保全・創造及び多様な自然と人間が共生する持続的発展が可能な社会の構築に寄与することとする。

組織図



里海とは、「人手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域」のことです。

調査研究等

▶ 令和の里海づくりモデル事業

閉鎖性海域をはじめ全国の沿岸域等で行われる里海づくりが、様々な地域課題の同時解決を図り、かつ持続可能なものとなるように、里海の多面的機能を活かして地域資源の保全と利活用による好循環を生み出すことを目指す環境省の「藻場・干潟の保全・再生等と地域資源の利活用による好循環モデルの構築等業務」（令和の里海モデル事業）を令和6年度から受託しています。

地域の多様な団体が参加する藻場・干潟等の保全・再生と地域資源による好循環の形成や連携体制づくり等を推進するため、専門家による助言や伴走支援、各団体が参画する「里海づくりネットワーク（仮称）」の構築、里海づくりに関する有識者が今後の里海づくりの施策を検討する「里海づくりのあり方検討会（仮称）」の開催、環境省との「里海づくりの推進に関する連携」締結により、里海づくりを支援していきます。

▶ 若手研究者活動支援制度

2020年度より若手研究者活動支援制度を設置し、閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む優れた若手研究者を育成支援しています。

この制度を通じて、優秀な若手研究者を発掘して若手研究者間及びエメックスセンター研究員会議等とのネットワークを構築し、閉鎖性海域に関係する研究者の国際的な研究の発展を目指します。



▶ S-13 持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発

環境省が実施する「環境研究総合推進費」で、2014年度から2018年度まで「S-13 持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」に取り組みました。



国際会議等

▶ 世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）

閉鎖性海域の環境問題を総合的に解決するため、国際的・学際的な連携をはかることを目的として、世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）を1990年の第1回エメックス会議以降、2～3年おきに世界各地で開催しています。

分科会での発表や意見交換をもとに、閉鎖性海域の沿岸およびその後背圏域の統合的な管理や共有責任の重要性を「エメックス会議宣言」として発信する他、エメックス特別セッションとして「里海セッション」、高校生及び大学生を対象にした「青少年環境教育交流セッション」を開催しています。



▶ エメックス国際セミナー

国内外から学識経験者を招き、研究者、行政官、市民、企業などを対象に、世界の閉鎖性海域の現状や課題、統合的環境管理、里海、環境学習など幅広いテーマで情報交換を行うセミナーを開催しています。



▶ SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」ボランティアコミットメント登録

2018年11月8日にタイ王国、パタヤにて開催された第12回世界閉鎖性海域環境保全会議(第12回エメックス会議)にて、持続可能な開発目標(SDGs)の目標14「海の豊かさを守ろう」へのボランティアコミットメント登録を宣言し、翌年2月に登録しました。

国際会議等の開催を通じ、閉鎖性海域の環境管理におけるネットワークの構築を行うことで、目標14達成に貢献できるよう努めていきます。



人材育成等

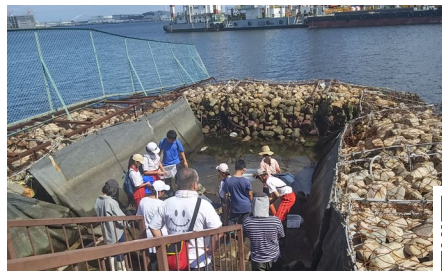
▶ 高校生海洋環境保全研究発表会

次世代の海洋環境保全を担う人材育成を推進するため、2022年度から、高校生が行っている沿岸域や流域の環境保全に資する研究・活動について専門家が直接助言・指導したうえで、活動成果を公開で発表し表彰する「高校生海洋環境保全研究発表会」を実施しています。



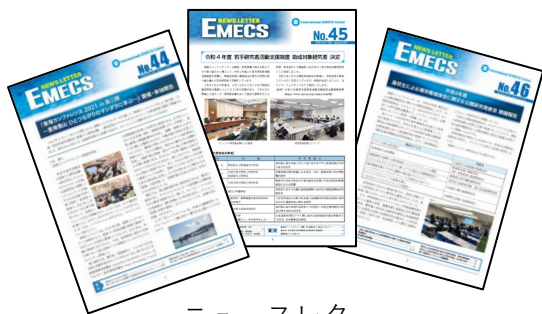
▶ 環境学習

兵庫県・尼崎港内に設置している人工干潟等の実証実験施設を、環境教育活動を行う方に活動フィールドとして提供し、環境学習活動に対して支援を行っています。



情報発信等

- ホームページ、ニュースレター、Facebook等を通じた情報発信
- 閉鎖性海域の環境に関わる資料収集とデータベース作成
- エメックス会議アブストラクトデータベース



ニュースレター



ホームページ



Facebook



アブストラクトDB



閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用をめざして
公益財団法人 国際エメックスセンター
International EMECS Center

EMECS

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号
人と防災未来センター 東館5F
TEL 078-252-0234 FAX 078-252-0404
URL <http://www.emecs.or.jp>
E-mail secret@emecs.or.jp



エメックスのHPは
QRコード先で閲覧できます